

はじめに

群馬県は、海拔12m余の低地から2,500mを超える高山まで、変化に富んだ地形を有し、尾瀬をはじめとした湿原や湖沼、利根川に代表される多くの清流に恵まれ、県土の約3分の2を森林が占めています。気候は、県北部の日本海型から県南部の太平洋型まで、地域変化が大きく、こうした自然環境を反映して、多種多様な動植物を育んできました。

しかし、近年、社会経済活動の発達とともに、人間の様々な活動や暮らしの変化は、自然環境に少なからぬ影響を与えており、本県においても開発や乱獲による種の減少・絶滅、里地里山などの手入れ不足による自然の質の変化、外来種などの持込による生態系の攪乱といった問題が発生しています。また、最近では、シカやイノシシなど野生動物による農林業被害の拡大が大きな問題として顕在化するようになりました。

こうした状況が全国規模で見られる中、我が国では、2008年6月に生物多様性基本法が施行され、2010年3月には同法に基づく初めての生物多様性国家戦略となる「生物多様性国家戦略2010」が閣議決定されました。また、同年10月には名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催され、その中で、これまでの2010年目標に代わり、日本が人類と自然とが共生する世界の実現を目指そうと提案した愛知目標が採択されました。

このように世界中で生物多様性の重要性が叫ばれる中、本県においても、これまで受け継がれてきた素晴らしい自然を良好な状態で残し、後の世代にしっかり伝えていくことが共通の課題であり、その課題に私たちは日々取り組んでいます。

本県では、自然環境の適正な保全を図ることを目的に、1974年度から県内の様々な地域において「良好な自然環境を有する地域学術調査」を、地形・地質、植物、動物の学識経験者で構成される「群馬県自然環境調査研究会」に委託して実施してきました。

本書は、2010年度に実施した調査の結果について取りまとめたものであり、調査・執筆にあられた方々の活動の成果です。この調査結果が自然環境に対する施策や研究に広く活用され、本県の自然環境保全の一助となれば幸いです。

最後に、調査・執筆にあられた皆様に深く感謝申し上げるとともに、御協力いただきました方々に厚く御礼を申し上げます。

2011年11月

群馬県環境森林部自然環境課長

目 次

1	袈裟丸山周辺（第3年）	1
2	安中市松井田町中瀬の新第三紀層	103
3	茶臼山溶結凝灰岩	113
4	榛名山東麓	123
5	湯桧曾川下流（第2年）	133
6	西榛名地域貴重植物種モニタリング調査IV	147